

ひ°、ひ°たゞ'よ')

No.9 2016.11.30

2学期があと少して終わろうとしています。

入園して 7ヶ月のどんぐりさん。今ではしっかり自分の居場所を築いていろんな人と関わっています。 セリヒリの中で泣くことも多いけれど 助け合うことたくさん! のまつぼっくりさん。 清里キャンプ以降 繋がることが多くなって くり・おねぐりさん、 小さい人のサポートが自然にやってきました。

2 漢期は行事もいろいろありましたね。縮刈り、ひらぼう祭り、収穫感謝の集いなどはご協力をありがとうございました。

清里キャンプが終わってから ほぼ毎日のように 咲美ちゃんが「まゆさん、清里樂しかったね。また行こうね」と伝えてきたり。咲美ちゃんにとっての嬉しさは 両手を広げてもまだ足りないくらいの楽しい時間だったのだしね。毎日のように聞いてる私も 毎日 嬉しくなってほひます。

お友達や大人とのやり取りで自分の気持ちをわざめられず泣いたり訴えたり一人になって考えたり…糸がもつれたような状況に向き合っている空太くん。その糸を外からの力でかたくつかに引っぱる見守る大人。子どもと過ごす時、子どもの内にある心にふれたような瞬間がありす。子どもの心がわかったとか理解したとかはいません。何からかならないけれどそれを壊さないようにならから一緒にいたいと思うような瞬間です。

新しい目でとらえなおすことができた時、きっと新しい自分自身を作ったと言えるのかかもしれません。心が外に向かう時が「開く」ばかりではなく、自分の内側に新しい世界を作っていくのも「開く」ことのどちらか。

素直に表現できる子どもの姿に接し、私はいつも うらやましさと同時に  
勇気をもらっています。自分自身には勇気、今、自分が感じていることをさけず  
受け止め、自分の心と正面から向き合うには、勇気が必要なのだと思います。子どもも  
大人も 变りたいと思いつづくうとしているのです。変わろうとしている隣人を(かたくなに見な  
い落ちつかない優しい目で見てもらいたい)といふから願います。  
(自分を)

大人が「さうすけ」「さうすけ」何を泣いてたの?」  
私もそんな風にからつと言ふうにやうにたいは。  
：眞弓

おみきいくみアジエリ

おおきいくみではこの春から田畠で色々な仕事をしてきましたが、冬を前にして先月終りには猪の脱糞と小豆の収穫をしました。それにも今年の田畠は夏以降は比較的天気のいい状況で作業できました。秋の長い雨でいつかに因るほどは乾かず、猪糞も脱糞も大幅に遅れました。この脱糞の日も前夜にまたまた雨が降り、できるができないかぎりぎりまで悩んでいたが、当日のお天気と軽い風のおかげで、おやけり前の午後やっと脱糞することができました。猪糞が乾くのを待つ間に畠で小豆の収穫をしました。小豆は枝につかうる上の方の豆から順に乾いて熟すので、一気にメリリとまとめてよく乾いた豆から順序でやを採っていきます。大人がやるとこれがなかなか圓滑く丁寧な作業。しかし今日はたくさんの手がありとあつて同時に事がいくつもあるので大助かり。「まださやが緑色で湿っているのはそのまま残して乾いてカサカサしている豆だけ採らね。」と丁寧に説明されました。おみくり。くりさんには簡単なことでも松ぼっくりさんには「すかすか」と難しいこと。「まだ緑のまま採り立てないかよ!」「あ~まだ乾いてない。手が3つもあちこちで大きめの人からあくびが...。でもそれは松ぼっくりさんにはも得意な仕事があります。土の上にさやがら飛び出で落ちているたまご小豆の実を拾って集めること。大人は「こいつは落っこちた!」桜李くん「あ、たーー!!」と満面の笑顔で手ひらにてこてしの小豆を手渡してくれました。ちくちくたまごだからこそ、丁寧にひとつひとつ上手に拾えるのです。みんなは地面をばくばく走り回って一生懸命採ってくれていました。この小豆は収穫祭の前日に焚き火でユーチュベ、収穫祭の日のみんなのための材料になりました。

一方、稚の脱穀は昔ながらの足踏み脱穀機でフル稼働。足で木の踏み板を踏んでドラムを回転させて、回す勢いで米粒を飛ばします。稻束をドラムに当たる人は手でしっかりと稻束を握りしめ、そして回すドラムに手を巻き込まれないように、真陥とのもり。ここらのあ米がわら來からバラバラ音でたまに吹っ飛ぶと、同時にシートの陸で作付けてから歓声があがります。今、スーパーで販売されるお米は、稲刈りと同時にユンベインで袋詰めされ、機械乾燥するものがほとんどですが、おひさまに当たってからじくら乾いて稻束から二ヶ日目の前にお米が剥れる様子を見るなどして、これからランチついでにこくお米がどんなふうに因みまで出来て、どうかさくに口に入るものかがわかるのが、子供も丁寧には自分の目でしっかりと見られたらうれしいなと感心です。隣で祖さんか娘が車の脱穀機を見て、羽路斗くん「早く楽ちゃんがカユイはよー」とつぶやいて、391は複雑びしが…。(笑)。次の日にはひ、ひでタヒニのお米から米の殻を取る「ぬめり」(ビンの中の糊つき米を棒でつづらて殻をとる、可い金本に石破式里芋(ボーリー)でニカリつけ殻をとる...)をして、やかのこどりひがひがの新米をいつててこながでました。羽釜の底のおにぎりも美味しい匂ひで。

## お知らせ

### ・保護者会のお知らせ

日時 12月7日(水) A.M. 9時20分～  
場所 バイブルキャンプ メインホール

・えりんこたいそう 12月14日(水)

・2学期終了日 12月16日(金)

### ・「小さなクリスマスの集い」のご案内

日時 12月16日(金) P.M. 1時30分～2時過ぎ  
場所 ひよひよの森(バイブルメインホールヨローテリーお待ち下さい)

子供たちは、少しずつクリスマスの準備を始めています。クリスマスの歌や絵本で去年までのクリスマスを思い起こしたり、劇やオペレッタも樂みたいと思ってます。小さな集いですがどうぞいらして下さい。充分に暖かい格好でお出かけ下さい。

・冬場、足が湿っていることが多いと申します。オムツセットは、一組のソックスと一緒に箱に入れてお出でください。

### ・おあきいくみの方へのお知らせ

・お料理日 8日(木)

・アート日 15日(木) 寒い季節に入りました今年度最後と申します。  
春～初冬までご好意によりライジングフィールド農耕保育を楽しめていたばかりでした。各道が終わる頃、また伺わせていただきたいたいと思います。

### ・ほっけ(12/12～2/3まで)の実施日

各日ともお週火曜日まで申します。

緊急時はご遠慮なく、声をかけて下さい。

12/12(月)・14(水)・15(木)	1/11(水)・12(木)・13(金)・16(月)
18(水)・19(木)・20(金)	23(月)・24(火)・26(木)・27(金)
30(月)・2/1(水)・2(木)	

## 田畠トジエ

収穫祭、てくてくの活動をありがとうございました。  
おみさいくけてじよりお書き下さい、小豆と子豆も自分で収穫して美味いお味噌になります。大豆は焚き火で炒り、石臼で自分で挽いて、そば麵になります。お餅もせんべい3升白(2升用のものも教ります)、蕎麦面にいて2升のものは3升用の大升子白で2升)です。昨年より多くなりましたが…ペロリと平らげてしまいましてね。餅が冷めないよう毎日熱湯で温めたり、手に水をぬれてるべとりで、つや良く仕上げる。筆を蕎麦面に散らせて表板も教ります。伸びのある美味しいお餅が出来上がりました。  
稚鳥を脱糞してみるとわら、大豆を干して出でた後の穀殻や、小豆を出でてみると草の下では、羊たちの冬の食料になります。今は羊小屋の散きがらを積んでおいた堆肥を畑に撒き込み、この後には田んぼにも堆肥を入れ冬の間水を張って田畠も冬反復。最後に茅葺と立ってくれてかかして立ちも、感謝をこめてお手で「火焚」し、空へ飛達りたいと思います。

：美和子

## ひよひよの森のスケッチブック 12月ヤマガラ

冬の森に静かに響く「ココココーン」という音。少し上の枝からかしら?顔をあげてみると「ニーニーニー♪ ジージー♪」とこんなとなく甘えているような可愛らしい声とオレンジ色のほんわりとしたお腹が目に入りました。木の実大好きヤマガラさんです。春、夏は昆虫たちを食べますが、冬になると堅い木の実を両足で押さえ、くちばいでコンコンとたたいて食べる様子がよくみられます。軽井沢やひよひよの森では生け垣などにも使われている「イチイ」の実を好んでよく食べています。イチイの木の枝に人がいてもあまり気に付かないのか、「ブラン..!」という羽音がきこえろほどそばを飛び、王だ、コンコン…コココンと種をつつきはじめました。

イチイの木の下で子どもたちとその様子をじっくりと見たこともあります。春にはおあきいくみの子どもたちが作った巢箱にも入ってくれたり、とても身近なそして人気の高い鳥です。そういうえは、春先、森で日向ぼっこしていくら、その腕にのってきて、Tシャツ着ていたセーターを

「ふんふん!」とひよひよといつたんです。  
どうやら、巢箱に使っていたことがよくあります。  
びっくりするやら、嬉しいやら…。篠原丈巳  
ヤマガラさんとの想い出です。この冬、まだ  
木に残っている不の実をみつけてたら、ぜひ  
耳をすませて、ヤマガラさんとの出会いを  
楽しんで下さいね!そして来年はとり年!  
です♪よい年をお迎え下さい

